

第1章 趣旨と位置づけ

- 目的** 行政と交通事業者が連携し地域の輸送資源を総動員することで引き続き利便性の高い地域公共交通を確保・維持していく。
- 計画区域** 羽島市全域（隣接市町との連携を含む）
- 計画期間** 令和7年度～令和11年度（5年間）

第2章 地域公共交通の現状

市内の各公共交通機関とも、利用者数はコロナ禍の減少から回復傾向にある。

第3章 前計画の評価・検証

地域公共交通確保維持改善に関する自己評価を毎年実施。

第4章 利用実態・ニーズの把握と課題整理

- 各種調査等** 乗降等調査・利用者アンケート・市民アンケート・南部線沿線高校生アンケート・地域懇談会等

- 主な現状の問題点**
- ・需要や地域特性に合っていない、機能・役割が重複した非効率な路線、ルートが冗長な路線、定時性の低下している路線がみられる。
 - ・通勤通学需要の減少、高齢者の増加が見込まれている。
 - ・燃料費や人件費の高騰、運転手不足により、公共交通の維持が困難になりつつある。
 - ・公共交通分担率が低く、過度な自動車利用の傾向がみられる。
 - ・利用が多いものの待合環境の悪いバス停が存在する。
 - ・利用しない方でも、コミュニティバスは必要だという意見が多い。
 - ・公共交通の認知度が低く、利用のハードルが高くなっている。

羽島市における地域公共交通の課題

- 課題1 多様なニーズや地域特性への対応**
 - ・地域特性やニーズに合った地域公共交通の構築
 - ・公共交通ネットワークの強化
- 課題2 持続可能な地域公共交通の構築**
 - ・効率的な地域公共交通ネットワークの構築
 - ・バス・タクシー運転手不足への対応
 - ・運賃収入や広告収入等経常収益の増加による収支率改善

- 課題3 社会情勢等の変化への対応**
 - ・ポストコロナ時代を見据えた公共交通の維持
 - ・高齢化社会への対応
 - ・過度な自動車利用の抑制
 - ・新たな技術の活用
- 課題4 外出を支援する公共交通の構築**
 - ・商業施設や温泉施設との連携
 - ・公共交通を利用するハードルの軽減
- 課題5 認知度・わかりやすさの向上**
 - ・誰にでもわかりやすい公共交通情報の提供
- 課題6 協働による公共交通の活性化**
 - ・民間と連携した地域公共交通の確保
 - ・公共交通に対する市民の親しみの向上

第5章 計画の基本的な考え方

基本方針 人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通ネットワークの構築

- 目標1** 暮らしに便利でみんなに利用される公共交通の実現
- 目標2** おでかけ機会を創出し、まちを活性化させる公共交通の実現
- 目標3** みんなが知っている、利用しやすい公共交通の実現
- 目標4** みんなが協力して、ともに支える持続可能な公共交通の実現

第6章 目標達成のために行う事業

- 施策1 運行サービスの改善に関する取り組み**
 - 1-1 コミュニティバスの路線・ダイヤの見直し
 - 1-2 民間と連携した運行形態や新たな運行方式の研究
 - 1-3 JR岐阜羽島駅を結節点とした公共交通ネットワークの確保
 - 1-4 商業施設や羽島温泉等との連携
- 施策2 情報提供・市民意識醸成に関する取り組み**
 - 2-1 出前講座の開催
 - 2-2 乗車体験会等の開催
 - 2-3 公共交通のPRの実施
 - 2-4 バス車両ラッピング
 - 2-5 公共交通利用ガイドの発行
 - 2-6 地域別マップの作成
 - 2-7 わかりやすい経路・行先表示の実施
 - 2-8 ICTを活用した情報発信
 - 2-9 アダプトプログラムによるバス停の維持
 - 2-10 地域住民のニーズを反映させる仕組みの構築

- 施策3 利便性向上に関する取り組み**
 - 3-1 キャッシュレス化の推進
 - 3-2 運転免許証自主返納者等への特典付与
 - 3-3 高校生の通学に対する補助の実施
 - 3-4 バス停の待合環境の改善

- 施策4 持続可能な公共交通確保に関する取り組み**
 - 4-1 運転手確保対策の実施
 - 4-2 コミュニティバスの柔軟な運賃体系の検討
 - 4-3 乗り継ぎ割引の実施



第7章 計画の達成状況の評価

評価指標	現況値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
利用者数 名鉄竹鼻線・羽島線 名阪近鉄バス羽島線 羽島市コミュニティバス	*1,839,101人/年 133,638人/年 96,084人/年	2,009,948人/年 146,900人/年 98,400人/年
高齢者定期券購入者数	438人・月	450人・月
中心市街地・主要施設での コミュニティバス乗降者数	356人/日	365人/日
利用促進PR実施回数	4回/年	6回/年
コミュニティバス (自宅最寄りバス停)の認知度	52%	60%
利用者1人あたりの運行経費	*875円/人	875円/人
主要交通結節点での 乗り継ぎ利用者数	15人/日	16人/日

*印の現況値は令和5年の数値